

民族誌資料

インドネシアの染織布

インドネシア の染織布

インドネシアの島々では、古くから染織布が作られてきました。染織布は衣服として用いられるなど生活に密接したものであり、その歴史は先史時代まで遡るとも考えられます。また地域ごとに色味や図柄の特徴が異なり、東南部に位置するスンバ島では、鹿や馬、鳥、海老などの動物や首狩りの風習をあらわした首架台などが見られます。

今回展示している染織布から、地域の特色を読み解いてみましょう。

弓

採集地:スンバ島



首架台

採集地:スンバ島



動物

採集地:スンバ島



スマトラ島の 霊船布

インドネシアの各地では、船が死者の魂を天上界に運ぶという、「霊船」の思想がありました。そのため、スマトラ島の儀礼用の布には、霊船の文様が全面に表されています。霊船の船首と船尾の先端部分に、オールのようなものがいくつか付属しているのが特徴です。船の中には、家形の建造物、日傘、動物、人などが表されています。その名称や意味は今日ではかなり失われてしまっていますが、結婚や葬儀など、さまざまな節目において大切な役割を持つ布です。

靈船布(パミンギル族)

採集地:西スマトラ島
ランボン地方



靈船布

採集地：西スマトラ島
ランボン地方



サロン

採集地:スンバ島



染織布(ベルー族)

採集地:ティモール島



サロン

採集地：フローレス島
リオ



ソンケット

採集地：フローレス島
マンガライ



染織布

採集地：西スマトラ島

